

アマダイ通信NO. 74b

(Tile fish network letter)

09年 秋刀魚の季節に

知人・友人各位

昼の陽射しはきつくても、朝晩随分涼しくなりました。8月末の衆議院選挙で、ようやく政権交代が実現しました。皆さんどんな思いでこの日を迎えたことでしょうか？

◎ようやく政権交替可能な国に！

8月30日の朝、図書館に行く前に投票しようと近くの小学校に行くと、投票所は長蛇の列。政権交替の歴史を作ろうと皆並んでいる。夕方出直すことにして図書館に来たら、ここも投票所になっていて、長蛇の列。接近する台風がどう影響するか気になるが、団塊ネットの仲間と参加した96年夏の民主党結党大会の日も、大嵐だったことを思い出す。

嵐の民主党結党大会の後、本郷の五月祭での同世代の鳩山や菅の講演会、駒場祭の鳩山兄弟の対談等を東大三鷹寮の後輩諸君と仕掛けて来た。民主党の応援団として、政権交替がようやく実現したのは嬉しい。失政が政権交替に繋がることで、緊張感ある政治が行われ、政官業のあり方にも楔が入る。次は自民党の出直し改革、リベラルと保守などの対立軸での再編、旧来の自民党的体質を引きずる小沢的政治手法の払拭が問題となる。多少の混乱はあるだろうが、改革に混乱はつきもの、よりましな方向に進むでしょう。

保守の強い故郷秋田でも自民党が完敗、2区の能代・大館地区でも先の知事選で敗れた川口前小坂町長が民主党をバックに立候補、大方の予想を覆し無所属で当選。高校同期の高松君の兄の県議も、民主党から比例区に立候補、当選した。8月29日は小野寺住友不動産社長など能代高校同期生で、恒例の軽井沢での納涼ゴルフをしたが、高松君はゴルフをキャンセル、万歳三唱のため急遽秋田に飛んだ。

今回の歴史的な選挙で、三鷹寮の後輩の民主党の辻恵君も大阪から小選挙区で二度目の当選。東大全共闘の仲間だった民主党の仙石由人も小選挙区で当選、社民党の阿部知子も比例区で当選した。「一人は万人のために！万人は一人のために！」という、かつて共有した変革の志の実現のために活躍してくれるだろう。他方敗北した自民党でも、同じく寮の後輩の舛添要一参議院議員が選挙応援で一人気を吐いた。自民党の立て直しのためにも気を吐いて欲しい。

◎紅葉の白神山地探訪の故郷へ！360度のブナ林が広がる二ツ森山登山と、秋田の秋味体験

「田舎の学校」が今年も我が故郷のツアーを企画して下さいました。案内させていただきます。

◆06年初夏の第一回から始まり、白神探訪も4回目となりました。毎回、地元の方々が趣向を凝らして、貴重な体験のできるコースとおいしい郷土料理で出迎えて下さいます。

今回のテーマ・一つ目は“晩秋の白神の紅葉”。一日目、きみまち阪で、紅葉と眼下に広がる米代川の雄大な眺めを堪能します。続いて訪れる素波里湖(ダム湖)も、景観がすばらしい。二日目は、二ツ森山へ登山。秋田・青森両県にまたがり、晴れれば360度見渡す限りのブナ林の眺望が開ける白神山地屈指の見どころです。ガイドさんの案内で、ゆっくり歩いて山頂まで約60分。時間もたっぷりとしています。

テーマ二つ目は、“白神の秋の恵みを味わう”。白神への玄関口・能代は、白神の山々、能代平野、米代川、日本海がもたらす食材の宝庫です。今回はただ味わうだけではなく、自分たちで夕食の食材を吟味・収穫・手作りします。漁船直送の日本海の魚を選び、畑で白神ネギの収穫、そしてきりたんぼ作りを体験します。二日目のお昼は、毎回お世話になっている八峰町の干場さん（☛兄）ご夫妻とお仲間達が、今年も手作りのおもてなしをさせていただきます。異色の見どころは、くしかんざし資料館。櫛・簪・笄のコレクション日本一、オーナーの語りも楽しみです。

天候その他の状況によって、柔軟にコースを調整・変更いたしますが、代替コースも魅力的な見どころいっぱいです！

日時：10/31～11/1(土・日) 1泊2日

場所：秋田県能代市・八峰町と周辺の白神山地

集合：大館能代（秋田北）空港（羽田発ANA第一便で）、列車の場合は JR 東能代駅

コース：1日目=きみまち阪の紅葉→素波里湖→くしかんざし資料館→比内鶏見学・魚の品定め・白神ネギ収穫→きりたんぼ作りと夕食（能代泊）2日目=二ツ森山登山→岩館・いさりびの館

参加費：35,000円（会員） 38,000円（非会員）*1泊4食・現地交通費・ガイド料込み
定員：20名（先着順、締め切りの際は御免なさい！）

申込：田舎の学校（TEL：03-5456-1362・FAX：03-5456-1363）

◎再び吉兆！子連れの大青大将現る！

先日、庭先に置いた古新聞をもう取りに来たかな？と玄関先に出る。と、長い物がニョロニョロ。蛇が舌をチロチロ巻いて、目の前をゆっくり横切る。青大将だ！6年前、30センチ開腹、上行結腸を盲腸諸共30センチカット、再縫合するという、大腸がんの大手術。切除したリンパ節9箇所中3箇所に癌が転移、「殆ど治癒する見込みなし（岩波新書「胃がんと大腸がん」）」のⅢbのステージ。手術を無事終え、3週間ほどして帰宅した時、隣家の境のコンクリート塀の上に長い体を横たえ、退院を祝ってくれたあの青大将だ！

日本人は一般的に気持悪いと敬遠する蛇だが、中国では古来吉兆として歓迎される。あれから姿を見ないのでどうしたか気になっていたが、小平用水のささやかな緑地を住み処に、しっかり生きていたのだ。6年振りに姿を現したのは、術後5年経過で完治といわれる、大腸癌完治のお祝いか？あらためて玄関先を見ると、細く大きなミミズのようなのが、体をくねらせるが、色も黒く、動きもミミズと違う。よく観ると「子大将」だ！これは6月に娘が孫娘を生んでくれたので、その誕生祝いか！？

慶大全共闘 ML 派の「戦友」、ソニー生命の村中君から頂いた生前給付の保険金1千万円は、小川カントリーの安いゴルフ会員権（8万円！）、ゴルフ場まで風を切って走る屋根のない赤い軽自動車コペン（150万円、屋根がないのに高い！？）や海外旅行の気晴らしで粗方使った。“悪銭身につかず”だが、命だけは残った。何事も前向きに考え、適当に発散して、ストレスを抱えこまないのが、大腸がんステージⅢbからの生還という、「奇跡」につながったのかも知れない。せっかく拾った余生、「社会的動物」、「類的存在」として、これからも多少とも他人の役に立ち、その悦びを又、自分の生きる糧にできれば幸いだ。

◎東進スクールのナガセもグローバル展開・・・国際宿舎生の時代！

日経新聞に三鷹寮後輩（S43, 45年入寮）の東進スクールの永瀬兄弟の（株）ナガセがアメリカのセサミストリートと提携、セサミのキャラクターと教材を使って子供向け英会話教室をフランチャイズ展開する、中国、インドでも事業展開するとの記事が載る。

日本でも11年度から小学校で英語が必修になるのをビジネスチャンスと捉え、ベルリッツとセサミの提携契約が来年で切れるので新たな提携先に名乗り上げ、セサミのブランドとメソッドを取り込みフランチャイズ制で投資を押さえて事業展開しようという訳だ！

何故インド？と思うかも知れないが、庶民の日用語はヒンズー語で、大学入試は英語。英語を日常使わない庶民の子弟には不利。だから需要がある。それに少子化で日本の市場は縮んで行くから、受験産業も当初から海外市場に打って出るといふ訳だ！

キリン、サントリーの合併といい、時代の流れが変わった。「国際学生宿舎」での経験が生きる時代になって来た！居ながらにして国際交流でき、外国語に習熟し、国際感覚を磨くことができる。寮生の皆はもっと交流を！🐟ももっとお手伝いしたい！

◎🐟のメキシコ紀行（2009年8月8日～15日）

いつからか、毎回🐟通信に海外ツアーの紀行文を載せるようになって、たまに載らない号があると、なぜか落ち着かない！？本末転倒だが、🐟通信の発行に合わせて海外ツアーをするようになった。悪乗りして、還暦からの旅行作家デビューを目論むが、出版社から声は掛からない！

①下は海、向こうも海よ！我は海の子！

午後三時くらいに成田を発ち十時間ほど、青い太平洋を覆った白い雲海が途切れるとバハカリフォルニアの乾いた大地。左手には一木もない赤茶けた山々。その山々を掠めるようにメキシコ航空機は土埃で霞む国境の街ティファナに降りる。隣町はアメリカ合衆国サンジェゴ、その直ぐ北がロスアンゼルス。

メキシコは、カリフォルニアやテキサス等のアメリカ西部や南部を、スペイン植民地時代から独立後にかけて、イギリスとその後のアメリカ合衆国による侵略戦争で奪われた。広大な国土の半分をアメリカに奪われ、二つの国の長大な国境には厳しい警備が敷かれるが、アメリカ合衆国への不法入国は絶えない。メキシコ人からすれば隣人に不法に奪われた畑を勝手に耕すようなものか？小振りでこぎれい、空調も効いた、ティファナの空港ターミナルのトイレの朝顔は高い。背伸びして用を足す。

ティファナを発った飛行機は海沿いを南下する。無人の砂漠と青い海の重なりの上を飛ぶ。その色の溶け合う様が美しい。所々、海辺が青く短冊に仕切られている。塩田か？砂漠と時折通り過ぎる雲の向こうに、淡く水色が広がる。まさかカリブ海ではあるまい。カリフォルニア半島に沿って南下しているのだ。こちらが太平洋で向こうはホエールウォッチングで有名なカリフォルニア湾。

隣席の、アドベンチャーツアー会社の若い社員の中山君と話が弾む。バハカリフォルニアでダイビングツアーの研修だという。距離的にはティファナに近いが、メキシコシティから戻る方が便利なのだ。二度目のメキシコは鯨とダイブするのもいい！？我は海の子！

②カブトムシ未だ脱皮せず！不味いたコスに負けるな和食！

3時間半ほどのフライトでメキシコシティ着。広い盆地に建物がびっしり並び、所々に高層ビルと緑。綺麗な街並。標高2千2百メートル超、周りの山々はさほど高く見えないが、夏でも頂きが白く輝く山もある。雨季で、一雨来た後の空港はTシャツに半袖シャツの身には涼しい。機上から綺麗に見えた街並だが、車で走るとアジアの途上国の首都と似たレベルだ。車は古いが多い。古い型のカブトムシが沢山走っている。メキシコで作って日本にも輸出している、新しい型のカブトムシはほとんど見かけない。交差点で車が止まると窓拭きをして金を貰う者、新聞やスナックを売る者などが駆け寄る。

ホテルの夕食はサラダと鶏肉、アボカド入りさわやか味のカルド・ソチルのスープに白身魚のフライ。地ビールのコロナを飲み、メキシコじゃテキーラ飲まなくちゃ！とワンショット頼む。水代わりにビールを追加。ビール小瓶40ペソ（コンビニでは11.5）、テキーラお猪口一杯60ペソ。1ペソ10円、平均的所得レベル（現地日本人ガイドによると女性一般事務職で月6万円、若干のクリスマスボーナス）からして高くないか？トウモロコシの薄生地を焼いたトルティージャにグリーントマト、青唐辛子、玉ねぎ、ニンニク、アボカドなどを混ぜたサルサ・ベルデのソースを付けつまみにするが、物足りない。男女とも巨漢が目立つ。これしきの夕食であの巨体を作れるとは、反芻胃でも持つのか？

二日目の朝、7時過ぎにバイキングの朝食。12、3人乗りトヨタハイエースで、メキシコシティ市内見学。15人参加のツアーの筈が豚インフルエンザで5人に減り、女2人連れが2組、男は僕1人だけ。飲み仲間の男のいないツアーは寂しい。昼はタコス専門店に。6種類のタコスが出る。薄くパリパリしたトウモロコシ煎餅の上に刻み野菜や炒めた挽肉、刻んだタコ？等の具が乗ったのが6枚。青や赤の唐辛子、キムチを刻んでトウモロコシ油？で混ぜたようなサルサ（ソース）をお好みで入れ、手で丸めて食べるが、タコスが固くパリパリ割れて具がボロボロ。手は油でベトベト。食べにくいことこの上ない。

メキシコでタコスを食べぬ訳に行かぬが、インドのナンの方が柔らかく食べるのに難がない！？揚げ春巻き、焼餃子は勿論、広島、大阪のお好み焼きの方がいい。薄くて固めの、韓国のチヂミだって数倍増し。東京の月島にはモンジャ焼きというのがあり、まだ食べたことはないが、タコスよりまじだろう。寿司だけでなく、栃木餃子、東西のお好み焼き、すきやの牛丼、小諸そばに富士そば、山田のうどん、中卯の親子丼、ついでに山本屋の味噌煮込みうどん、矢場とんの味噌かつ、横手の？ソース焼きそば等の日本の「B級グルメ」だって、世界で勝負できる。雄飛すべきだ！秋田の切りタンポも負けてはいけない。

③呪われたカソリック！・・・スラムは問題なのか？解決なのか？

メキシコシティの中央広場ソカロには、アステカの王モクステマ二世の居城をスペインの征服者コルテスが破壊し、そこに植民地の本拠として建てた国立宮殿や、アステカ帝国の中央神殿を破壊し、その石材で建てた大聖堂が聳える。それらの建物はアステカの霊に呪われたか、今にも倒れんばかりに傾き、修復作業が続く。

元々盆地の底の巨大な湖を、先住民が一部埋立てて作った都。コルテスは湖を埋立て尽くし、巨大な都市に改造したので、地盤沈下が激しい。傾き加減では、スペイン侵略以前に神殿のあったテベヤックの丘を占拠するグアダルーペ寺院も負けてはいない。黒い髪と褐色の肌を持ったグアダルーペの聖母の御利益も叶わず大きく傾き、隣合わせに現代的な

機能美を誇る2万人収容の新聖堂が造られた。日曜のミサのごった返す人波を効率良くエスカレーターが捌く。

広場には民族舞踊を輪舞する一団や、血の滲む膝の痛みに耐え膝行参拝する熱心な信者も。侵略の尖兵となり、形あるものばかりか、魂まで奪った悪魔の宗教カソリックを、彼らメキシコ人はなぜかくも厚く信じるのか？貧しいのも、恵まれぬのも、全て「神の思し召し」と、天国に幸せを求めるのでは、「神」を豊かにし、富める者を更に富ませるだけで、社会の進歩はないと、嘆く者もいる。広場では、金色に輝く巨大な前法王、ヨハネ・パウロ二世が人々を見下ろす。最近まで半世紀間、この国の政権を牛耳って来たのは「制度的革命党」だ。「制度としての革命」とは何なのか？革命という言葉だけが溢れる。

3日目の朝、ラテンアメリカ最大の遺跡都市、世界遺産テオティワカンまで50キロメートルをバスで走る。市街を抜けた辺り、市街を囲む山の麓からびっしり続く家並み。スラムだという。トタン屋根の掘っ立て小屋のイメージとは少し違うが、住宅が密集する。60年代頃から貧しい地方の農民が職を求めてメキシコシティに出て来て、水道も電気も下水もない所にバラックを建てて住み着き、路上での物売り、建設労働、家事手伝い等の、その日暮らしをする。農村で仕事のない者にとっての「解決」は、メキシコシティにとっては「問題」となる。

④馬とロバの差

紀元前二世紀頃から八世紀頃まで栄えたメキシコ最大の、テオティワカン人の宗教都市国家、広大な敷地にエジプトのそれに比肩すべき太陽のピラミッド、月のピラミッド等の遺跡が点在するテオティワカンを後にして、ユカタン半島の中心都市メリダに飛ぶ。4日目の朝、鬱蒼としたジャングル的一本道をウシュマル遺跡に車を飛ばす。7世紀初頭のマヤ古典期から10世紀にかけて栄えたマヤ文明を代表する遺跡。広く散らばるピラミッドや宮殿、尼僧院、球技場等がジャングルの中に浮かぶ。近くのカバ遺跡も見学する。

ユカタン半島では多くの都市国家が興っては滅びた。アンデスのインカ帝国同様、メキシコのアステカ王国、マヤ文明もスペインに滅ぼされた。黄金と石器は持つが鉄器も弓矢も持たぬ者は、馬上で鉄砲を打ち、馬車で兵糧運ぶ者に勝てず。鉄器持たぬは何故と問えば、車がないから。何故車持たぬと問えば、牛、馬などの大型動物がいなかったからと。

馬とロバの差が支配と被支配を決定付け、未だに少数の白人支配階層が経済と政治の実権を握り、混血のメスチーソが中間層を形成、日本人と同じく蒙古斑を持ち、色浅黒く、背低く、頭大きく猪首の原住民、インディヘスが下層に溜まる。三色に色分けされた社会。スペインの侵略者は強奪した金銀・財宝をヨーロッパに持帰り、来るべき産業革命を準備しただけではなかった。トウモロコシ、ジャガイモ、トマトなどもヨーロッパに持帰り、ヨーロッパを飢えから救い、食文化を革命し、豊かにする。奪われし者は、持ち込まれたペストなどの疫病で多くの命が奪われただけでなく、その日暮らしが未だに続く。

⑤憧れのカリブのリゾート、カンクンで“海の子”する！

滞在5日目の夕方カンクン入り。さっそくプールサイドでテキーラベースのカクテル、マルガリータを飲み、白砂の海で泳いではプールサイドのデッキに寝転がって本を広げ、ゆったりとした時間を楽しむ。夕食はビールと、夕方だというのにテキーラベースのカク

テル、サンライズを飲み、早起きを期して早々に寝る。ホテルのカクテルは80ペソ。

夜中、ガチャガチャ音がするので目を覚ます。隣り合わせの部屋で鍵をいじっているようだ。こちらから隣とのドアを開けた？か、男二人連れと鉢合わせ。気持悪いので部屋を替える。夜中というのに頭スッキリ。海に見える広い部屋で、夕方ホテル近くのウォールマートで買った、500ミリ32ペソの紙パック入りカリフォルニアワインを寝酒に、カリブの海の闇を眺めながらメールを打つ。

翌最終日、寝不足も何のその、朝からプールで、カリブ海で泳ぐ。白神の麓で生まれた、我は海の子。生まれた時から産湯代わりに日本海につかった。大学受験で上京するまで、日の出から日の暮れまで、庭先の磯で潜ってはサザエやアワビを探し、天草やモズク、フノリを採り、アイナメをヤスで突いて、北の海の短い夏を満喫した。今や腹は出っ放し、水を得た魚とは言え、マンボウのように波間に漂う。

昼過ぎカンクン発。ホテルから“迷惑料”代わりにテキーラとシャンパンのボトルを頂いたが、メキシコシティの空港ターミナルのレストランで、持込み料10ドル払い、シャンパンの封を切り“お別れ会”。最後はこれで！とテキーラベースのカクテル、サンセットを一杯。120ペソ。成田で換えたドルをきっちり使い尽くす。飲み代総計1万円。ティファナ経由のメキシコ航空機内で一泊。往きはまずまずだったが、帰り二回の機内食は不味い！長いフライトで翌朝無事成田着。売店で鮭おにぎり一個買う。やはり和食だ！？

◎再生医療と人工臓器から尊厳死を考える・・・東大三鷹クラブ第86回定例懇談会

赤池敏宏君（東京工業大学生命理工学研究科生体分子機能工学専攻教授・昭和40年入寮）との出会いは、昭和40年入学・入寮後、最初に入室した部屋、すなわち東寮15,16室で、である。同室には、今も昭和40,41年会でおなじみの、というより大変お世話になっている小林君、年会には出てこないが八幡君、医系の他大学に転進した大野君、食堂座敷での歓迎コンパ翌日に退寮した佐々木君、1年先輩には、その後長きに亘り、我々のよき相談相手、話し相手となってくださった薬師さん、間もなく退寮された今木さんなどがおられた。少しあとで入室して来た人には福元君、森瀬君、1年（以上）先輩で個性あふれる浜口さんなどがいる。隣の13,14室には辰君、川見君、1年先輩の荒木さんなどが居られ、辰君の呼び声、掛け声が今も耳に響くようだ。

我々の寮生活は、今振り返ると何かが転げるように始まり、そのまま転げるように続いた。同室の仲間は、恰も人格までもが渾然融合したかのごとく、一丸となって西に東に転「遊」した。日光金精峠を超え尾瀬に出たり、東女生を誘って潮来に合ハイしたことなど、その時々の赤池君の表情、物言いとともに眼前に浮かんでくる。

赤池君の印象は、当時も今も変わらない。いつも和やかで人当たりが良く、ご存じの通りの博覧強記であり、また信念の強い人である。

工学部応用化学系に進み、現在は、東京工業大学フロンティア研究センターで、生体分子機能工学という領域を研究・指導している。

今回の講演テーマにある、再生医療に用いる人工臓器などが研究課題である。学生時代の専攻とは必ずしも馴染み深いと言えない東京女子医科大学日本心臓血圧研究所理論外科助手という立場を皮切りに、独創性豊かに今日を切り拓いてきた彼の成果により、知らぬうちに我々の命もすでに延ばしてもらっているのかもしれない。激しい開発競争が展開さ

れている万能細胞（iPS細胞）についても現場の話が聞けることだろう。

彼が現在力を入れていることのひとつとして、彼自身が立ち上げをも指導した、東工大と中国の清華大学との間での「大学院合同プログラム」という、交換留学・単位相互取得システムの運営がある。中国、特にその学問分野での成長性、重要性につとに着目し、学術とそれをになう人材の交流を進め、日中双方の発展を図り、友好をはぐくもうという実践活動だ。激流中国の勢いは日にすさまじく、あらゆる領域で両国の関係は拡大・深化しつつあり、今こそ、日中交流に日本としての展望の保持、主体性が求められている。この面をも先導する彼の主張を聴くもまた、楽しみならずや、である。

中平 弘（40年三鷹寮／（社）日本原子力学会フェロー・元住友金属鉱山株）

日時：平成21年10月9日（金） 18時30分～21時（開場18時）

場所：学生会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）、終了後、別途二次会。

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎第8回東大三鷹クラブゴルフコンペのご案内

栃木カントリーでは二回目になる、コンペをS40年入寮の田代さんに企画して頂きました。皆様ご参集いただければ、幸いです。

1. 場所：栃木カントリークラブ <http://www.tochigicc.com/>
〒328-0063 栃木市岩出町616 TEL 0282-22-3121
2. 期日：10月4日（日）9：00集合 9時41分から3組
3. 費用：セルフのカートで15000円（食事なし） 別途、コンペ商品と懇親会費用3500円予定。初めての人が多い場合は、キャディーをつける事はできます。
4. コースまでの案内
 - ① 車の方・・・東北道栃木インターから15分程度（ナビをご覧ください）
 - ② 電車の方・・・いろいろ行き方がありますが、東武日光線 or 両毛線の**栃木駅**から、**8時50分のクラブバス**に乗りましょう。
 - A、浅草駅から（東武線）・7時10分発東武日光駅行き快速、又は・7時30分発特急げごん1号（北千住7時40分、春日部8時02分）
 - B、上野、新宿方面から（JR中心）
 - ・上野6時53分発宇都宮行き快速ラビット（赤羽、7時2分）
 - 小山（7時53分着）で両毛線に乗り換え。8時28分発、（新宿発6時42分、埼京線）
 - C、新宿発7時31分、日光1号、8時47分着（2910円）その他、宇都宮線の栗橋駅乗換え、東武栃木下車の方法もあります。
5. 申込み：干場事務所（有）TFネットワーク）まで

◎第9回東大三鷹クラブゴルフコンペのご案内

S45年入寮の皆さんが企画してくれました。こちらも奮ってご参加願います。

1. 開催日時：2009年11月29日(日) 08:30 現地参集
2. 会場：長太郎CC アウト09:00～ 4組予約
3. 料金：ビジター19.5千円ベース(乗用セルフ)
4. 参加費：パーティ費、賞品代で各位2千円の見込み(一部、メンバーの方々から賞品代寄贈を期待しております。)
5. 賞品：新ペリアで優勝決定。NP/DC、大波等用意します。
6. 参加の輪：ご夫人、お子さんの参加も歓迎します。同伴メンバー、意向を反映します。
7. 交通：東京駅06:30に出発のクルマを用意します。ご利用下さい。ご利用の方は連絡下さい。1週間前のドタキャンあり、ですので気軽にお申し込下さい。
8. 申込み：干場事務所((有)TFネットワーク)まで

◎昨日はどうもありがとうございました・・・寮生より

7月11日の土曜日、交換留学生の送別会。三鷹寮の隣?に住む40年入寮の辰さん、府中に住む42年入寮の中村君と一緒に参加。“欠食児童”のために、三鷹クラブからいつものように鮭桶を差し入れ、一緒に楽しく交流。終わってから和食ファミレス華屋与兵衛で、二次会。「日本の食文化」ということであれば、もっとそれらしい所に案内しないといけないのだが、数が数なので、🍷の小さなポケットでは中々ままならない。

◆干場さん 昨日は留学生歓送会にお越しいただきありがとうございました。スライドとか花火とかお楽しみいただけましたか??さらに毎度毎度、2次会に連れてってくださりありがとうございました。そしてご馳走様でした。

AIKOM生(交換留学生)も最後に日本文化を知れてよかったと思います。もうじきAIKOM生が帰るとなると、すごくさびしいのですが、10月には新しいAIKOM生が来ます。毎年10月初旬にAIKOM生歓迎会をしているのでぜひお越しください。

我々は試験やって、夏休みを満喫してきます。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

◆宮本君 留学生にも「日本の食文化」を味わって貰い国際交流、皆に喜んで頂き何よりです。毎回呼んで頂きありがとうございます!10月には新留学生歓迎会や音楽祭に呼んで頂けそうで、楽しみにしています。9月か11月にOBも交えテニス、卓球、バドミントン、綱引き等の体育祭をやって頂けたり、駒場祭で何かイベントが出来たりすると尚、嬉しい。試験が終わったら打ち上げコンパを僕の事務所でしょうと思います。是非おいで下さい。

◆10月24日は音楽祭!

夕方5時から予定しています。お近くの方、久しぶり寮を覗いてみたい方、寮生・留学生と交流を!という方は是非お出掛け下さい!

◎ケニアの子供達のために!カンパのお願い!

三年前の秋、イオン環境財団から「ノーベル平和賞受賞者マータイさんとケニアと一緒に植樹しませんか?」との呼びかけがあった。これは宮村智ケニア『大使(8月1日よりSBJ銀行代表取締役社長、昭和40年東大三鷹寮入寮)を訪ねるいい機会だ!と40年入寮の大川さん、久木野さん、41年入寮同期の國生さんを誘い、一緒に参加した。険しい山道を登り、地元の人達とした植樹も意義深く、サファリも楽しかったが、遠いケニアで学校に行けない子供達のための里親施設や授産施設を運営したり、ケニアのナッツ工場を経営し、ケニアに貢献する日本人がいるのは驚きであった。そんな一人に、コイノニ

ア教育センターで貧しい子供達の教育で成果を上げる市橋牧師もいた。その市橋牧師から、応援依頼の檄文が届いた。宮村先輩と共に、カンパを呼び掛ける次第です。宜しくお願い致します。

〈Koinonia Education Centre〉

On Kibagare Way Loresho



コイノニア教育センターは創立7年、80名の子供たちが学んでいます。子供たちは、コイノニアの向かい側に谷を隔てて広がるキバガレ・スラムに住んでいます。トタン屋根と泥壁の家には、電気、水道はありません。両親がそろっている家庭は約半数で、母子家庭、あるいは祖父母、親戚に育てられている子供たちもいます。コイノニアは、キリスト教の信仰に基づき、全人格的な教育を子供たち提供し、心と知性、魂と体が豊かに成長し、社会に貢献できる人材として育てることを目的としています。荒廃し、貧困に苦しむスラムが変わるために働く原動力、リーダーとなる人材を育てたいと願って日々の教育に励んでいます。教育内容は高い水準を目指し、階級社会が厳然と存在するケニアの社会において、どの階級に属する子供が入学しても対応できるプログラムと教師スタッフがそろっています。“スラムの子供だからこの程度で”というのではなく、将来世界のどの国へ行き、どんな職業についても、神様と人々に奉仕できる人材を育てることが目標ですから、教育内容に妥協はありません。このような理念の下に6年半をかけてコイノニアの教育内容の基礎を築いてきました。日本の多くの方々のご支援とお祈りによって支えられてきましたことは大きな感謝です。今後の課題は、コイノニアを存続していくための経済基盤をケニアの国内で築いていくことです。2010年より5年計画で、コイノニア教育センターを含めた総合的なキリスト教教育事業を立ち上げに取り掛かっています。第1段階はキューナ幼稚園の延長として小学校を始めます。コイノニアの現在行っている教育を、お金を払って学ぶことのできる家庭の子弟に提供することで、その収益をコイノニアの運営費に当てます。またケニア国内での募金活動、運営費捻出事業を充実させることも今後の課題です。現在コイノニアは生みの苦しみの状況にあります。2008年の運営費総額は800万円

になりました。現在約200万円の累積赤字があり、毎月の資金繰りに苦勞しています。コイノニア・教育センターの趣旨をご理解いただき、コイノニアを存続させるために、献金のご協力をお願いする次第です。どうぞよろしくお願ひいたします。

キューナ教会牧師 市橋隆雄 コイノニア教育センター主事 市橋さら

KOINONIA MINISTRIES P.O.BOX772-00621 Nairobi Kenya

《日本での支援窓口》

郵便振り込み先：コイノニア・アカデミー基金 00160-6-373439

会計担当：浜井和美 TEL：03-5951-8236

コイノニア教育センター連絡先 E-mail ichihashi@kcf.or.ke

HP<http://www.kdn.ne.jp/~amani/>

◎国境なき楽団と翔んでケニア！

歌手の庄野真代さんが主宰するNPO法人「国境なき楽団」が、この度、日本の家庭に死蔵されている楽器をケニアの恵まれない子供達のおために贈り、庄野さんのコンサートに合わせ、交流のためのツアーを開催することになりました。大まかなスケジュールなど決まりましたのでお知らせ致します。興味のある方は是非ご参加ください！若干の微調整は最終的にあると思いますが、参加費用は約35万円とのことです。（なお旅行社はアフリカ旅行が専門の「道祖神」。）

◆問合せ・申込：国境なき楽団（TEL：03-3462-2007 <http://www.gakudan.or.jp>）

日本発日：11月21日 EK

11月22日 ナイロビ着14：50 EK

出迎え+TRSF TBH コンサート会場。コンサート参加。

コンサート後、カーニバルで夕食（庄野さんチームと一緒にいる）

夕食カーニバルにて パンアフリック泊 昼食+夕食

11月23日 朝食後動物の孤児院、シェリドリックさんのゾウ孤児院を訪問

昼食はレンジャーズロッジにて。ゆっくりとる。

昼食後16：00からのコンサート；日本大使館に向かう。

夕食はパンダ中華レストランにて。パンアフリックホテル泊 三食付

11月24日 朝食後ナクル市へ。

基本的に庄野さん楽団チームと同一行動。

宿泊はメリカホテル／チェックイン。 昼食レストランは未定

（午後、ナクル市のコンサート会場訪問、コンサート）市内のコンサート

会場にTRSF。会場は未定）コンサート後、メリカホテルへ、泊。

夕食はホテルにて 朝食+昼食+夕食

11月25日 早朝公園へ。 2時間くらいのサファリの後、09：30頃公園ゲートを出てマサイマラへ（昼食弁当持参）夕方マラ着 イルケリアニ泊

朝食+昼食+夕食

11月26日 マラ滞在 サファリ イルケリアニ泊 朝食+昼食+夕食

11月27日 朝食後、サファリしながらゲート、ナイロビへ。昼食弁当持参。

夕方ナイロビ着（時間があればスーパーマーケットに寄る）

パンアフリック泊。 夕食はホテルにて。 朝食+昼食+夕食

1 1月28日 朝食後、ゆっくり時間でマトマイニ孤児院訪問（滞在時間は不明）
その後空港へ。 昼食はなし。 夕食は機内食。 EKにチェックイン。

◎終わりに

ケニア関係で裏表2ページ増やして久し振り10ページにと思ったのだが、あれもこれもと入れ込んだら12ページの大部になってしまった。饒舌な性格そのままに！読了ありがとうございました。再見！